

健康経営支援に注力

愛鉄連健康保険組合 アクサ生命と協定

厚労省補助金 事業にも採択 100社の認定目指す

愛知県内の機械器具製造業が加入する健康保険組合、愛鉄連健康保険組合（事務局 名古屋市中区黄金通1の18、江原功一理事長、電話052・461・6131）は、加入事業所の健康経営支援を強化する。このほど、アクサ生命保険（本社東京都）などと協定を結んだ。アクサ生命の約100人の健康経営アドバイザーが加入事業所を訪問し、従業員の健康に関するアンケートを実施する。取り組みは厚生労働省の補助金事業にも採択され、健診データを分析し支援の効果について検証も行う。経済産業省の「健康経営優良法人」制度で本年度、加入事業所100社の認定を目指す。（竹田ゆりこ）



4月、連携する関係者が集まりキックオフミーティングを開いた

愛鉄連健康保険組合は、加入事業所572社、加入従業員数6万6750人を誇る大規模な総合型健保組合。一方で、被保険者が50人に満たない中小・零細事

業所が7割を占めており、短期に利益につながりにくい健康経営への取り組みは、遅れがちな傾向にある。アクサ生命との協定によ

り、約100人の健康経営アドバイザーが加入事業所を訪問し、健康経営支援を行う。具体的には、アンケートを通じて従業員の生活習慣や仕事の満足度などを

見える化し、生産性に与える影響を調査したり、セミナーを開催したりする。

従来、健保組合の職員が加入事業所を訪問して健診結果から重症化の可能性がある対象者を抽出し、医療機関への受診を促すなど事業所と連携した細やかな支援を行っていたが、数が多いことから訪問しきれない課題があった。健康経営支援を強化し、今年87社だった「健康経営優良法人」の認定で、2023年は100社を目標に掲げる。

また、厚生労働省の補助金事業「高齢者医療制度円滑運営事業」の採択を受けて、過去10年間の健診データや医療費なども分析。データホライズン（本社広島県）と帝京大学（東京都）の協力を得る。健保組合が手掛ける、専用車による巡回健診、保健指導、再検査、重症化予防などの取り組みの効果を検証。従業員や家族の健康増進に向けた事業の拡充につなげる。